

<問い合わせ状況 2024年5月>

院外処方せんに関連する問い合わせ

当院は院外処方せんを発行しています。処方内容などに疑義が生じた場合の窓口は薬剤師となっており、月に5~10件程度の問い合わせに対応しています。5月の疑義照会は3件で、内容は以下の通りでした。



- 用法用量確認
- その他（2件）
 - ・吸湿性の高い薬剤の1包化について
 - ・処方箋紛失について（患者勘違い）



薬に関する問い合わせ（患者・家族・施設より）

患者さんやご家族、施設の方からの質問にも対応しています。

5月は1件質問がありました。

- 退院時にもらった薬はそちらでもらう事は可能か？（処置通院あり）
→主治医へ相談するよう説明。その後来院時当院より処方あり。



薬に関する問い合わせ（院内より）

他部署スタッフからの質問にもお答えしています。記録してあるDI室への問い合わせは、5月は5件でした（病棟で直接質問されたことは未記載の可能性あります）。

◎がついたものについては回答をDIニュースNo.462に記載します。

◎COVID-19薬の自己負担金について

- セフメタゾンでアレルギーが生じた場合、ワイスタール[®]は使用可能か？
→セフメタゾンとワイスタール[®]は交差反応が生じる可能性がある。原則としては使用しない。
- インスリンアスパルトは当院では何になるか？ → ノボラピッド[®]注
- 多発性骨髄腫の最新治療法について → ガイドライン紹介

◎クロピドグレル錠の術前休薬期間の長さとお出血リスク率には関係があるか？

